



喜多埜

はじめに

昨月でもって、御本社、御旅所で異なっていた社報の名称を統一し、今月より社報名を「喜多埜(きたの)」と改めました。

喜多埜とはこの梅田一帯を指す「キタ」の語源になった地名で、元々は当社社の別名であった北野(喜多埜)天神からきた地名です。

この地は平安時代には大阪の北辺とされ、郊外の扱いでしたが、当時の人々の美意識からか、ただの北の野原ではなく、美称として喜ぶ多い埜(野)原とし、喜多埜と呼んでいたようです。後の室町時代に、全国天神社の総祀である北野天満宮より御神霊を勧請(御神霊をお迎えする事)した故事により、北野という名称が一般的となり、北野村という村名も生まれました。そして戦後キタと通称され今に至っています。

大阪のキタの氏神様として信仰される当社にとって、縁深き喜多埜の名を社報に冠し、神社、梅田、行き交う人々の歳時記として月ごとにお送りしていく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

独自ドメイン取得

この度、御旅所と齒神社のホームページのアドレスが独自ドメインの取得により変更致しました。アドレスは以下の通りです。

御旅所 = <http://www.otabisyo.com/>

齒神社 = <http://www.hagamisan.com/>

サクラと天神さま

梅の花。これは誰もがご存知の天神さまの代名詞ですが、実は天神さまと桜にも何かしら不思議な縁があります。その一つが、後撰和歌集の「さくら花ぬしをわすれぬものならば吹き来む風に言伝てはせよ」という天神さまの和歌で、大宰府に旅立たれる道真公の和歌といわれています。また、天神さまが最初に祀られた北野天満宮は元々、桜で有名な右近の馬場と呼ばれる所で花見の名所でした。他にも人形浄瑠璃や歌舞伎で有名な菅原伝授手習鑑においても、道真公の従臣、白太夫の息子に、松王丸、梅王丸、桜丸と、松、梅、桜が名前に用いられるなど、桜が至る所に顔を出します。もしかすると古代の天神信仰には桜が重要な位置にあったのかもしれない。

携帯電話専用サイト開設

この度、携帯電話専用サイトを作成いたしました。アドレスは以下の通りです。

<http://www011.uppsoc-net.ne.jp/~u-shirae/mobile/mobile-index.html>

また、神社界初のモバイルサイトへのQRコードを作成いたしました。カメラ付き携帯をお持ちの方で、QRコード対応の方は左記のQRコードをバーコード機能で読み取って頂ければ、モバイルサイトが表示されます。



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

